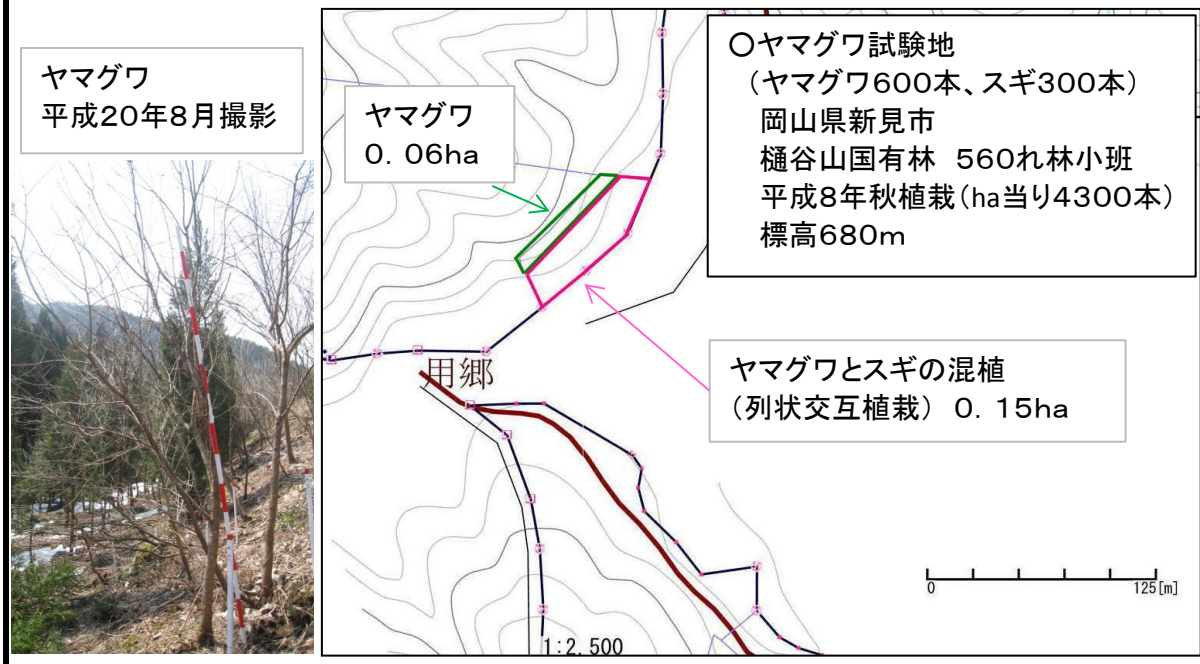
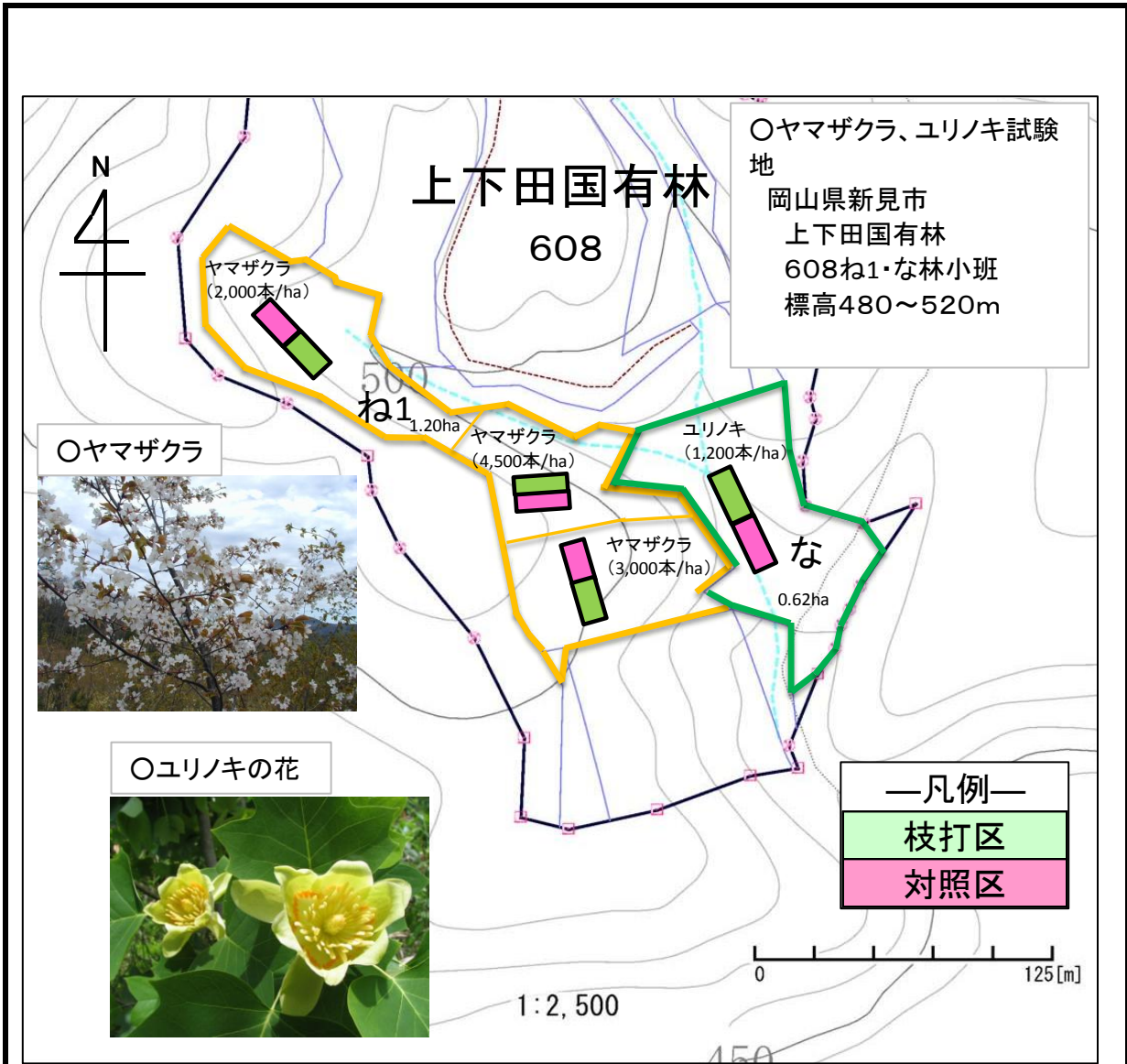


名 称	人工造林による有用広葉樹の育成技術の開発
カテゴリー	特殊用材林の育成方法
キーワード	ユリノキ、サクラ、ヤマグワ
開発期間	平成18年度～平成25年度
実施主体	森林技術・支援センター
実施場所	岡山県新見市
国有林名	上下田国有林608ね・な林小班(ユリノキ、サクラ) 樋谷山国有林560れ林小班(ヤマグワ)
協力機関	無
背景・目的	建築用材、器具材等の幅広い広葉樹用材の需要に対応するため、有用広葉樹の育林技術の体系化を目的に有用広葉樹を植栽し生長等について平成8年度から10年間調査してきたが、土地への適応性が低い樹種と生育のよい樹種に区分されてきた。生育のよいヤマグワ、ヤマザクラ、ユリノキについては用材生産の可能性があることから、引き続き保育作業(枝打ち等)を実施し、有用広葉樹の育林技術に取り組む。
実施方法	1 平成8年度 (ヤマグワの植栽) ヤマグワ-600本 スギ-300本。ヤマグワのみ 0.06ha、ヤマグワとスギの根植(列状交互植)0.15ha 計0.21ha(4,300本/ha) 2 平成9年度 (ヤマザクラの植栽) ヤマザクラ 2000本区/ha 0.47ha、3000本区/ha 0.38ha、4500本区/ha 0.35ha 計 1.20ha 3 平成9年度 (ユリノキの植栽) ユリノキ 750本 0.62ha 4 下刈、林内整備、生長量調査(根元径、胸高直径、樹高)を実施 5 平成19年度 ユリノキ、ヤマザクラの試験区において、枝打ちによる生長量の違いを見るため枝打ち試験区の設置(平成20年2～3月枝打ちの実施)
成 果	ヤマザクラについては、下刈り等の保育とは別に病害等の処理を行う費用がかかることも懸念されるが、適切な処理を行うことで良好な生長が見込まれる。また、枝打の実施により、通直な材が採れる可能性高くなると思われる。 植栽本数毎の生長は、2000本/ha 区の生長が最も良い結果が得られたが、設定した試験区の地形(谷沿い・尾根沿い)により差があることから、植栽本数による違いかどうか判断できなかった。枝打区と対照区では、ほとんどの区域で枝打区の数値が高い値を示しているが、枝打による生長の差は認めがたい。谷沿いでの生長が良好なことから、植栽時には、地形を十分検討する必要がある。 ユリノキについては、活着も良く生長も良好である。枝打ちによる生長の差は認められない。成長の過程で下方の枝は自然に落下することから、特に枝打は必要ないと思われる。 ヤマザクラ・ユリノキについては、双方とも順調に生長しており、当面の間施業の必要性がないことから経過観察することとしている。 なおヤマグワについては、植栽後ほとんどの個体で、腐朽、幹折れ等被害が発生したため試験を中止。
成果の活用	
関連資料	

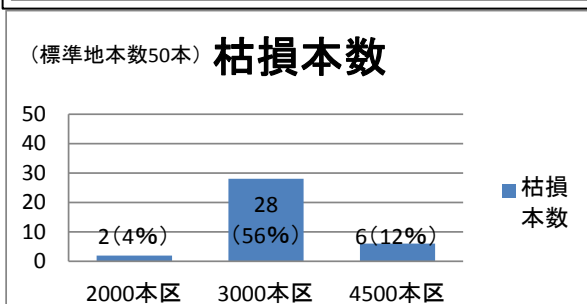
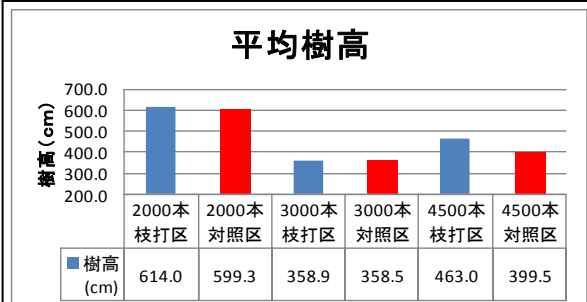
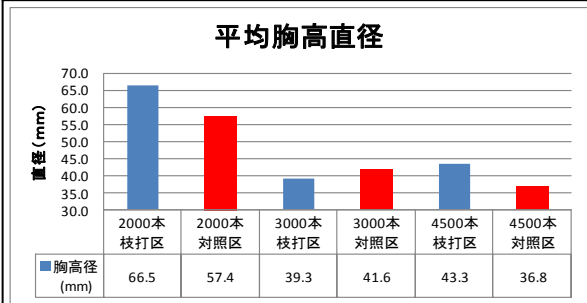
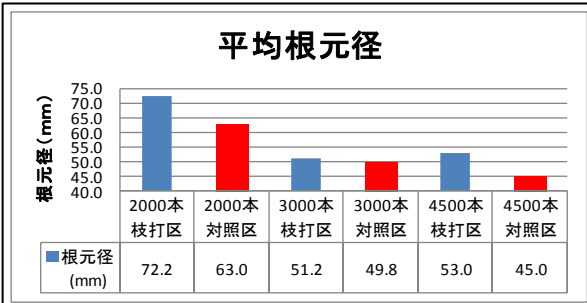


ヤマグワ
 平成20年8月撮影



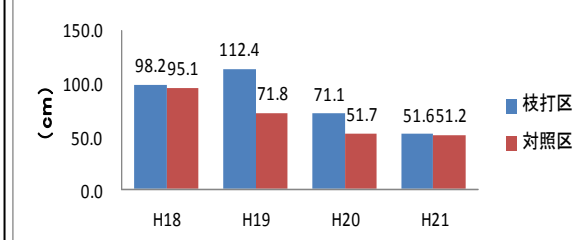
○ヤマザクラ

平成24年度 枝打区・対照区別、平均根元径、直径、樹高及び枯損本数



○ヤマザクラ(2000本区) 枝打ち実施前後の年度別平均樹高生長量の比較

区分	H18	H19	H20	H21
枝打区	98.2	112.4	71.1	51.6
対照区	95.1	71.8	51.7	51.2



○平成20年3月撮影

2000本区 NO. 23 枝打実施直後



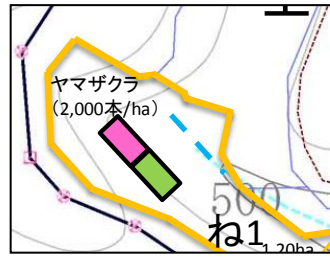
平成25年5月撮影

2000本区 NO. 23



○平成24年度 地形による生長の比較

※2000本区は谷筋に並行に設定されていた。

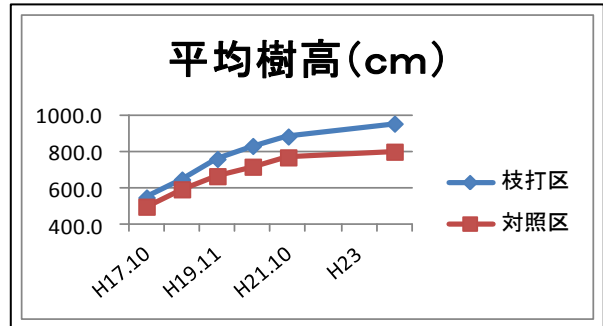
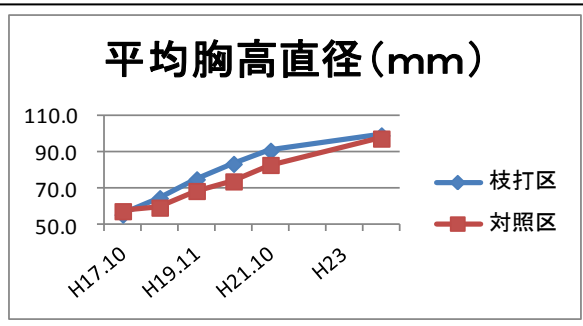


ヤマザクラ
2000本区 配置図

区分	配置図					尾根側 31~50	谷側 1~30	
	50	31	30	11	10			
対照区	49	32	29	12	9	対照区	549.0	629.5
	48	33	28	13	8		枝打区	629.1
	47	34	27	14	7	計	589.1	617.2
	46	35	26	15	6			
	枝打区	45	36	25	16	5	対照区	53.9
44		37	24	17	4	枝打区		63.3
43		38	23	18	3	計	58.6	64.0
42		39	22	19	2			
41		40	21	20	1			

□ : 谷側 1~30
□ : 尾根側 31~50

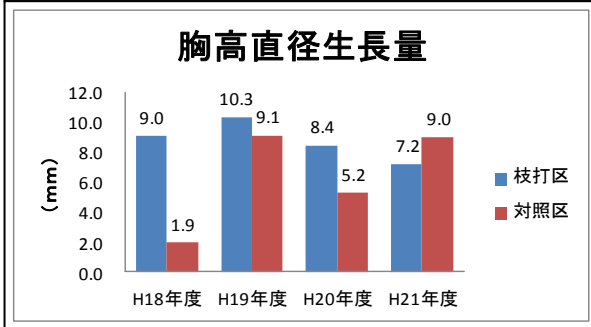
○ユリノキ生長の推移 (H17~H24)



○枝打ち実施前後の胸高直径及び樹高の年度別生長量の比較

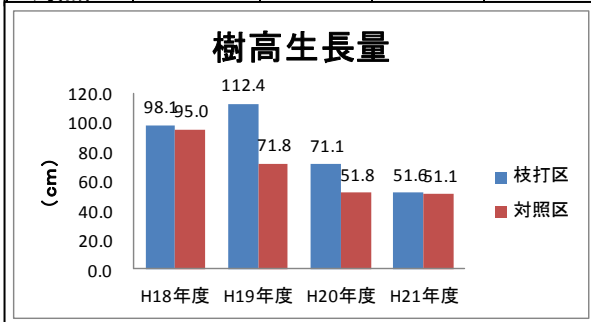
胸高直径生長量 (mm)

区分	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
枝打区	9.0	10.3	8.4	7.2
対照区	1.9	9.1	5.2	9.0



樹高生長量 (cm)

区分	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
枝打区	98.1	112.4	71.1	51.6
対照区	95.0	71.8	51.8	51.1



ユリノキ試験区 配置図

枝打区	46	47	48	49	50
	45	44	43	42	41
	36	37	38	39	40
	35	34	33	32	31
	26	27	28	29	30
対照区	25	24	23	22	21
	16	17	18	19	20
	15	14	13	12	11
	6	7	8	9	10
	5	4	3	2	1



平成24年度 生育状況(夏)

平成24年度 (秋)



